

2020年6月14日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

聖霊降臨後第2主日（特定6） 説教

「福音（良き知らせ）にどう応えていくか」

〔旧約聖書〕	出エジプト記 19:2~8
〔使徒書〕	ローマの信徒への手紙 5:6~11
〔福音書〕	マタイによる福音書 9:35~10:8

主の平和が皆さんと共にありますように。

「私ができる事は歌を歌うこと」「私には野球しかない」

大きな災害、また今私たちが直面している新型コロナウイルスとの日々の中で歌手やスポーツ選手が現実の只中であって己が何を出来るのだろうかと自問し応えとして出されたのが上記の言葉です。

「無力感」さいなまれながら一体何をすれば良いのだろうかと迷う時に私たちは今できることは何かを考えます。私も教会の礼拝が出来ない時に何をすべきだろうかと悩みました。皆さんの心からイエス様が離れていかないようにせめて日曜日のメッセージをできる限り皆さんにお届けすることにし、教会のホームページにもメッセージを掲載することにしました。

このような思いに至ったのは自分だけの思いではなく同労の仲間の動きや、家族からの助言に大いに私自身心動かされた部分が大きいです。

そして、思い出した言葉があるのです。池間哲郎さんが、ご自身の著書『あなたの夢は何ですか』の中で書かれた言葉に「あなたが出来る最大のボランティアは日々、一生懸命生きる事」ですと言われた言葉です。私は足が止まってしまう時によくこの言葉を思い出し、励まされています。

自分に出来る事を毎日とにかく一生懸命に行っていく事、それは仕事、家事、勉強などすべてにおいてです。天職という言葉がありますが英語で「コーリング」と言います。教会の言葉では「召命」と呼びます。

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主にお願いなさい。」（マタイによる福音書 9:37~38）

「収穫」とは神様からのメッセージです。私たちを救いへ導く良き知らせである福音は多いが、

働き手が少ないとはどういうことなのでしょう。神様はもちろん人間の力を借りなくてもすべてを成し遂げられる方です。ですから、働き手が少ないというのは良きしらせに応答する人が少ない、神様からの恵みの招きに手を差し伸べる人が少ないとイエス様はここで言われているのです。

「イエスは町や村を残らず回って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病気や患いをいやされた。また群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。」(マタイによる福音書 9:35)

イエス様がこの地上で肉体をとって生きられた時代はどんな時代だったのでしょうか。

調べてみると、この時代は様々な病気が蔓延し、有能な指導者に恵まれず、ちまたには失業者があふれ、多くの人が病と困窮の中に倒れている時代であり、一説によれば、主イエスの時代は、ユダヤ古代史の中で失業者が最も多い時代であったようです。

私はこの事実を知った時に「今はまさにそうではないか」と思いました。こんな状況の中にあっては収穫である「福音」のメッセージは私たちに届かないのでしょうか。そんな事はないのです。

こんな時だからこそ、むしろ福音は私たちの心を支えようと充ち満ちているのです。収穫は多いのです。

イエス様が「群衆が・・・弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」(マタイ 9:36)と言われましたが、深く憐れむというのは断腸の思いという意味があります。

福音は私たちにいつも届けられているのです。それを妨げるのはイエス様の時代、そして現代も本質的には全く同じで時代状況、そしてその中で病と困窮の中に倒れている時代なのです。

しかし、そのような中にあっても神様の招きは止まることはありません。「召命」に生きるとは神様からの招きに応える事です。私たち一人一人にその招きはあるのです。その招きにどう応えていくのかそれは私たち一人一人に委ねられているのです。

「異邦人の道に行ってはならない。またサマリア人の町に入ってはならない。」(マタイ 10:5)

12人の弟子を選び神様の宣教の業と一緒に参与するよう招いた弟子の事をイエスは使徒と呼び、彼らを派遣するのですが、排他的な言葉が私たちをつまづかせます。一体なぜこんな事をイエス様は言ったのでしょうか。神の救いのご計画はイスラエル人であった事実をイエスはここでまずはっきり宣言しているのです。その救いの計画はイスラエル人を通して外国人にも伝わっていくことを神様はご計画していたのです。しかし、彼らはそれを拒みました。救いを独占したのです。その事によって神様のご計画は

変更され、救いはすべての人に向けられて開かれていったのです。

したがって、収穫は本当に多いのです。すべての人に向けて福音は響いているのです。働き手が少ないとは、その福音の招きの中に生きていく人が一人でも多く与えられるようにとのイエス様からの切なる祈りなのです。

私たち一人一人は、みんな違う形で、そして最もそれぞれにふさわしい形で福音の招待があるのです。それが本日私たちに御言葉を通して与えられた良きメッセージです。